

★ 授業のヒント

デジタルカメラやインターネットの普及により、写真を授業に取り入れる可能性が広がってきました。今回は、写真の使い方について考えます。

テーマ 教室で写真を使う

目的 もくてき
写真の特徴をよく考えて、効果的な授業を行う。 しゃしん とくちょう かんが こうかてき じゅぎょう おこな
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級～中級(上級) しよきゅう ちゅうきゅう じょうきゅう
クラスの人数 にんずう
何人でも なんにん

みなさんは授業で写真を使ったことがありますか。自分で撮った写真や絵葉書、雑誌の写真などを、教室で教材や教具として使ったことがある人も多いでしょう。小さな写真は、大人数の教室では全員に見せにくいという問題がありますが、最近ではコンピューターやデジタルカメラを使って、教室でさまざまな写真を、いろいろな形で見せることができるようになってきました。

◆写真の特徴

写真には、次のような特徴があります。

- ・言葉では簡単に説明できないことを伝えられる
- ・現実感がある
- ・学習意欲を高める

例えば、日本の「和室」を見たことのない学習者に「和室」を説明したいときに、言葉で説明をしてもなかなかイメージがつかま



ません。写真を見れば、どんなものかすぐにわかります。また、ロールプレイの場面を設定するときに写真を使えば、場面を具体的に



示せるし、現実感を持って活動ができるでしょう。写真は、学習者の注目を引きやすく、興味を持たせたり、わかりやすくしたりすることもできます。

◆日本語教育用『写真パネルバンク』の写真を使う

『写真パネルバンク』は、日本で日常的に目にする物や場所、日本人が日常的に行う動作や活動を示す写真

が全部で643枚もある教材です。日本の生活習慣や文化事情も学べるようになっていきます。写真は、学習者が数十人いる教室でも十分に見せられる大きさに作られていますが、CD-ROMのものもあるので、コンピューターを使って見せることもできます（コンピューターのモニターで見せたり、プロジェクターにつないでスクリーンに映し出したりできます）。また、「みんなの教材サイト」(<http://momiji.jp/kyozai/>)には、『写真パネルバンク』の写真の約8割が、電子ファイルとして無料で提供されているので、コンピューターを使って見せたり、印刷してパネルと同じように使ったり、好きなように加工したりすることができます。

『写真パネルバンク』は、語彙の指導や日本事情の紹介、文化理解にたいへん便利な写真教材です。また、何人かの人の日常生活の写真が数枚ずつあるので、次のような活動にも使えます。

<活動例>

目標：一日の生活について描写する。（または「～時にVます」の文を作る。）

活動：同じ人物の写真を何枚か見せて、その人の一日の生活を話したり、書いたりする。



この活動のように、写真を使う目的が文型の練習など言葉の学習であっても、写真の中の文化的要素に注目させたり、文化的な気づきを促したりすることは写真の教材ならではのことで、是非取り入れてみたい視点です。

◆先生や学習者の撮った写真を使う

身近な人が撮ったり写っていたりする写真は、自然と興味がわき、積極的に話そうという気持ちになります。

<活動例>

目標: 自分の家族や体験について話す(レベルに合わせた文型や表現を使う)。

活動: 学習者をペアまたはグループにして、



各自が持ってきた自分の家族の写真(または旅行の写真など)を、他の学習者に見せながら説明する。他の学習者が質問をして答えるようにしてもよい。



学習者同士でこの活動をする前には、教師の写真で活動の例を示すといいでしょう。デジタルカメラで撮った写真であれば、デジタルカメラをテレビモニターにケーブルでつなぐことによって、全員に同時に見せることができます。

◆教材用に写真を撮る

もし、日本に行き行って写真を撮るチャンスがあれば、是非、授業で使える写真を撮ってみてください。例えば、次のような写真なら授業ですぐに使えます。

- ①教科書に出ている場所や場面、トピックに関係のある写真。
- ②文字の学習用に、看板や標識の写真。
- ③教師自身が驚いたものや珍しいと思ったものの写真(日本について紹介したり、異文化について考えさせたりするときに使う)。



◆写真をインターネットで探す

授業で使いたい写真が、市販の教材にあるとは限りません。また、教師が撮影するにも限界があります。そんな時にインターネットを使えば、学習者に見せたい写真を探すことができます。例えば、Googleの「イメージ検索」(<http://images.google.co.jp/>)を使えば、ウェブサイトで公開されているさまざまな写真を一気に見られます。日本の太鼓の写真が欲しい場合、「太鼓」や「taiko」とキーワードを入力して検索します。すると、太鼓に関係のある画像の一覧が表示されるので、その中から適当な写真を選びます。画像のファイル名をアルファベットにしていることも多いので、漢字やかなだけでなく、ローマ字のキーワードで探すこともコツの一つです。

その他に、「イメージ検索オプション」の機能を使えば、さらに、詳しい設定で検索ができます。



◆写真を使うときの注意

写真は授業に効果をもたらしますが、使い方によっては効果を低めてしまいます。写真を授業で使う場合には、次のような点に注意しましょう。

- ・写真を使う目的をはっきりさせる。その写真が、学習目的に最も効果的な教材なのかよく考える。
- ・肖像権や著作権などに気をつける。

例えば「新聞を読みます」や「～に～があります」など、語彙や文型を練習するときには、絵やイラストの教材のほうが見せたいものがはっきりしてわかりやすいかもしれません。下の「新聞を読みます」のイラストと写真を比べてみてください。写真では、学習者が別のところに注目したり、誤解したりする可能性があります。また、動きのあるものを説明したいときは、ビデオや動画のほうがわかりやすい場合もあるでしょう。どの教材にもそれぞれの長所短所があります。学習者の反応を予想しながら、授業の目的や時間配分などをよく考えて、使う教材を選びましょう。また、個人で撮った写真、インターネットから探した写真の場合、写っている人や写した人などの権利をそれぞれの国の法律に基づいて守るようにしましょう。特に、デジタルの写真は加工やコピーが簡単なので、注意が必要です。



注: * 印の写真、イラストは「みんなの教材サイト」から取りました。

参考資料

国際交流基金日本語国際センター(1995~1998)『写真パネルバンク』I~V. 日本出版貿易
国際交流基金(2006)『すぐに使える「リアリア・生教材」アイデア帖』スリーエーネットワーク
清水康敬監修(2006)『必携! 教師のための学校著作権マニュアル』教育出版

このコーナーの担当: 中村雅子、有馬淳一、木田真理(日本語国際センター専任講師)

読者のみなさんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。